



- 日 時：平成27年2月8日（日）
 - 会 場：大阪府鍼灸師会館3階
 - 講 師：日本鍼灸研究会代表 篠原 孝市 先生
- 『医道の日本誌』2015年2月 臨床に活かす古典 「No.34鍼法」のお話より

中国では鍼法というのは後漢の時代まで隆盛した。後漢の時代にも『難経』などの本で少しの進展はあったが、『明堂』の中に手技は書かれていない。その後の時代の1000年間、西暦300年～1200年（六朝～南宋時代）くらいまでは鍼法というのは陰をひそめていて、大体10例中9例が灸、後の1例が鍼（ただし患部に直接施術する外科的な施術）である。

鍼も廃れてしまってお灸だけになってしまったというのがこの1000年間である。（一旦廃れた）鍼法が盛んになって来るのは、南宋・金・元時代になってからである。元（げん）の時代に鍼が非常に盛んになる。お灸は（元々）ずっとあった。なぜ鍼が盛んになったかはよくわからない。元（げん）から明（みん）の時代にかけて鍼灸が盛んになる。（盛んであったのは）1600年くらいまでであろうか。しかしこの後、清（しん）の時代になると鍼灸は非常に衰退する。1800年代になると鍼が禁止されるということもある。

日本ではずっと灸法が中心であった。鍼が盛んになるのは室町時代の後期くらいからである。中国との人の行き来があったので直接に中国の影響を受けているのであろう。お灸中心の治療と江戸時代の直前になって盛んになった鍼法とが加わって鍼灸という二重性のあるものに成る。ついでに鍼が（中国から）入ってくる時に経脈学説も入ってきた。（経脈学説はそれ以前から日本に入ってきていたが、無視されている状態であった）

鍼灸の本というのは日本では非常にたくさん出ていて、中国よりも朝鮮半島よりも多い。日本の近世に出た鍼灸書というのは大変な数で、何百種類というような数になるが、しかしそれらのすべてに鍼法が書かれているわけではない。ほとんど書かれているのは、つぼの事である。その中で限定されたものの中に、鍼のことが出てくる。そこに二通りの系統があり、一つは夢分流、御菌流、意斎流、御菌意斎の系統の流れをくんでいるもの。啓蒙的な鍼灸書『鍼灸重宝記』（本郷正豊撰）もその系統の一つである。他の一つは杉山流、杉山真伝流で、岩田利斎の『鍼灸要法』、柳川流の柳川靖泉『鍼科發揮』などにくわしい。

江戸時代は、元禄時代を境にして鍼法が段々に衰退してくる。江戸時代の鍼法の隆盛は最初の100年間くらいしか続かなかった。江戸時代の鍼灸の歴史を見ると1600年代の100年間は鍼と灸、特に鍼。1700年代になると鍼が廃れてお灸が表に出てくる。ただ鍼は衰退するが、鍼の代わりに刺絡が出てくる。

●六元正紀大論篇第七十一 第四十六章～第四十七章 第四十六章より抜粋

【六気は一年間を60日ごとに6つにわけたもの。厥陰（けっちん：大寒～春分）、少陰（しょういん：春分～小満）、少陽（しょうよう：小満～大暑）、太陰（たいいん：大暑～秋分）、陽明（ようめい：秋分～小雪）、太陽（たいよう：小雪～大寒）となる。本文は、季節の順ではなく、三陰三陽の順に説明しているので、太陰と少陽の順が入れ替わっている。六気には、固定されたものと（これを主気と言う）毎年変化す

るもの（客気と言う）の二重構造になっている】

"黄帝"が次のように尋ねた。

「五運六気のあるべきありかた、六気の正常と異常とはどういうものであるのか」

"岐伯"が次のように答えた。

「六気の正常のありかたというものの中には、化（か）・變（へん）・勝（しょう）・復（ふく）・用（よう）・病（びょう）が含まれています。一つ一つみな違っています。どんなことが知識として欲しいのですか」

"帝"は言われた。「すべてを聞きたい」

"岐伯"は言う。

「終わりまでこれを言わせてください」

「厥陰（けっちん）の気が訪れると和平（わへい）、春木の気となる。少陰の気が訪れると暄（けん）、あたたかい。太陰（たいいん）、夏の後半が訪れると埃溽（あいじょく）、蒸し暑い。少陽の気が訪れると炎暑（えんしょ）、ものすごく暑くなる。陽明の気が訪れると清勁（せいけい）、冷たい風が吹く。太陽の気が訪れると寒雰（かんふん）、寒々とした雨、雪、霧が起こる。」

☺2015年は、

『厥陰の気（1月20日～3月20日）』『少陰の気（3月21日～5月21日）』

『少陽の気（5月21日～7月22日）』『太陰の気（7月23日～9月22日）』

『陽明の気（9月23日～11月22日）』『太陽の気（11月23日～2016年1月20日）』
となります

（参考：国立天文台天文情報センター暦計算室ホームページ）

☺次回は、「六元正紀大論篇第七十一 第四十八章から」です。

色んな季節の正常な現れ、異常な現れについて学びます。

皆様のご参加をお待ちします。

（素問勉強会世話人 東大阪地域 松本政己）